モユク★カムイ

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

NO. 44
MAY 1996

あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

どうぶつと私 2
新しい春が
またやってきた 3
シリーズ
「ぼくは動物大使」
その6 アジアゾウ 4.5
1996年版
見どころマップ 6.7
飼育研究レポート
特 版 8.9
ふれあいのひろばの
どうぶつたち 10
できごと 11
おしらせ
飼育日誌

アジアゾウ
Elephas maximus

どうぶつ と 私

私は、札幌の街の中で生まれました。当時の札幌は、家の前を荷馬車が通り、道路には馬糞が落ちていて、春の強風が吹く頃には乾いた馬糞が飛び散るような街でした。

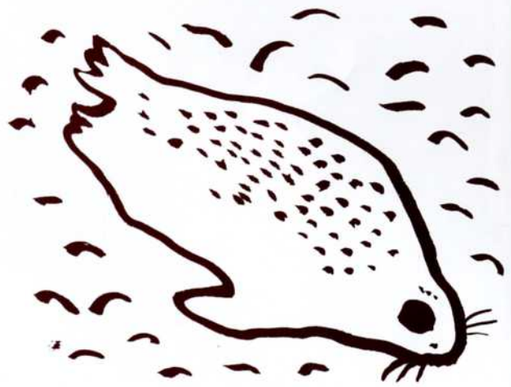
その頃の私たちの遊びは、「○○とり」が主流でした。雪解けを待って、カエルやエゾサンショウウオの卵とりです。朝早くから、自転車に乗って出かけます。それぞれの仲間に「秘密の宝庫」があるので、滅多にかち合うことはありませんでした。卵を持ってきて秋まで育てるのですが、成育は難しく数匹しか生き残りません。それでも、何匹生き残ったかを自慢しあい、極秘のテクニックを教わりながら、卵を採った池に返しに行きました。

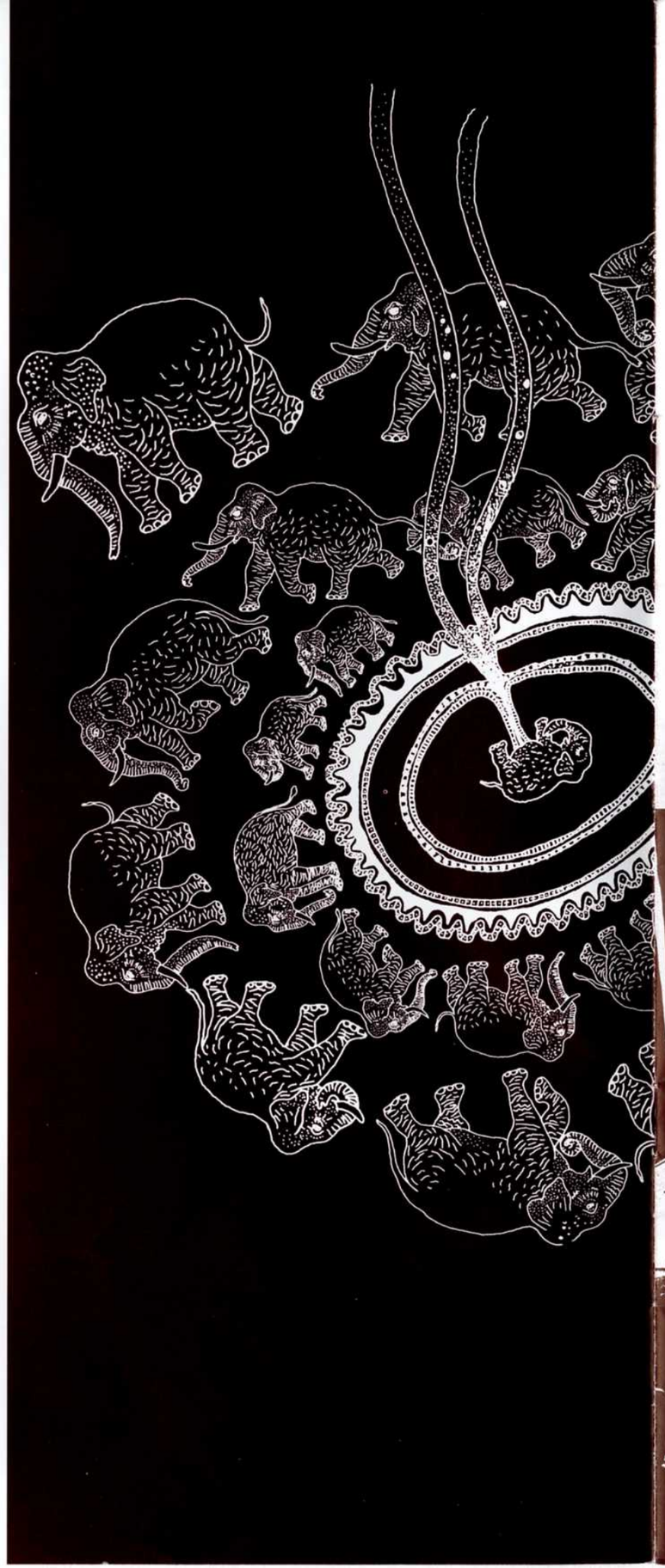
夏のセミ採りも楽しみでした。札幌の近郊にはリンゴ園が多く、夕方日の落ちる頃に出かけます。羽化するために穴から出てきたセミもたまに見つかりますが、ほとんどは穴の中に草を入れて釣ります。私たちは「穴ゼミ」と言っていました。服に着けたまま家に帰り、カーテンにつかまらせておくと、その晩か次の晩には羽化します。早く寝なさいと叱られながら、淡黄緑色の羽根が長く伸び、焦げ茶色に変わるまで、布団の中からじっと見ていました。

もちろん、クワガタやチョウ、バッタも忘れません。虫ばかりでなく、鮒釣りをしたりハツカネズミを増やしたりと自分の生活の周りには、いつも動物がいたような気がします。

そして、今も多くの動物たちに囲まれて、旭山動物園で生活しています。

小菅正夫

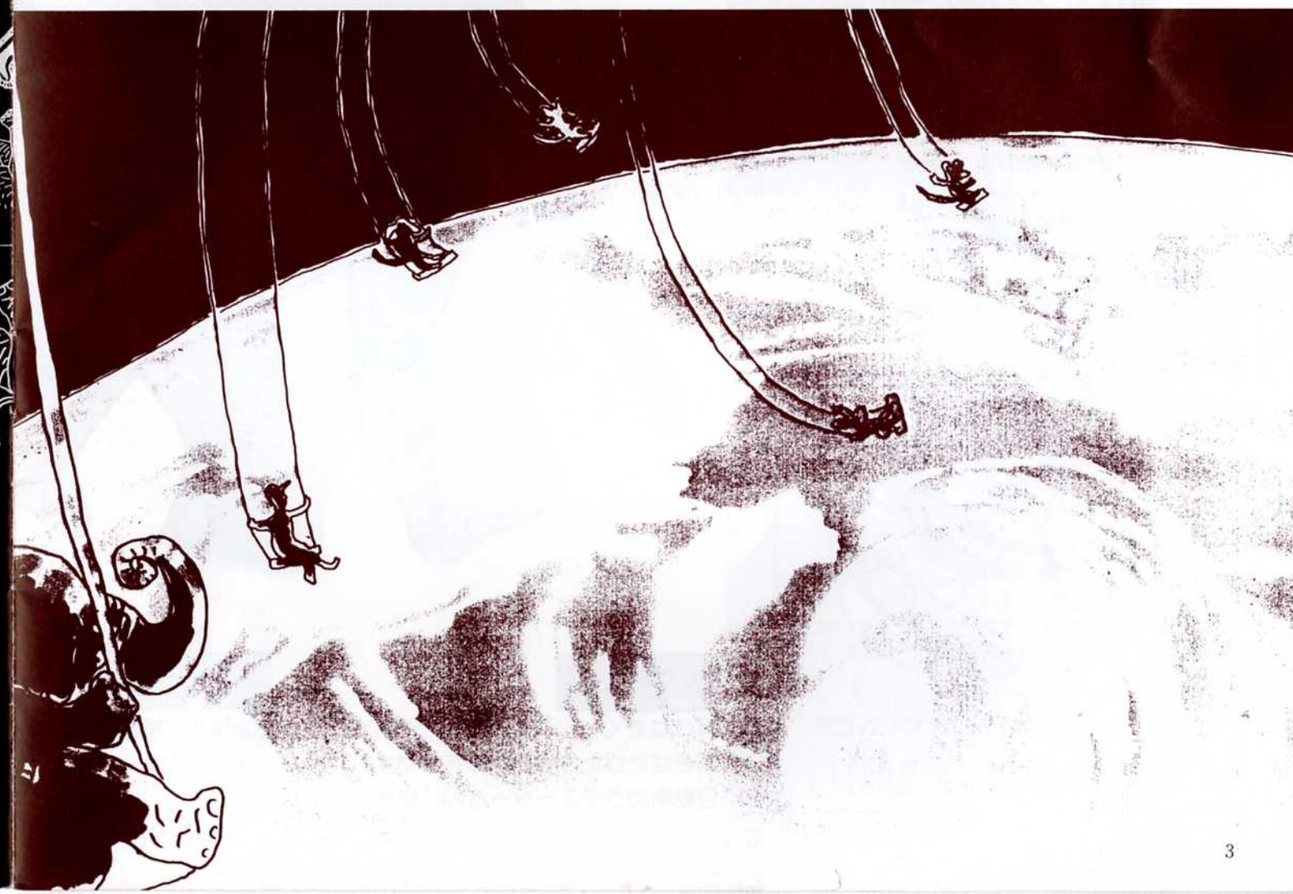




新しい春がまたかってきた。

春は、入学式
春は、新緑
春は、桜
春は、鳥たちのさえずり
春は、せせらぎの音
春は、生命の始まり
春は、わずか数年の命のリスにも、
何十年も生きる人にも
平等にやってくる。
たった数回しか春を迎えれない
リスたちは、一日も無駄にしない。
春だ、さて何から始めよう

「絵とき●ゾウの時間ネズミの時間(福音館)」より



ぼくは、動物大使

その5　陸上最大で愛らしい動物　アジアゾウ

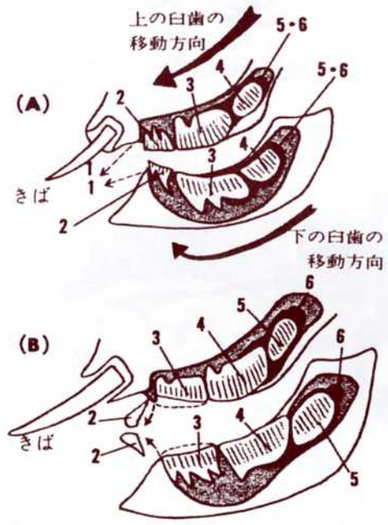
アジアゾウ *Elephas maximus*

現在地球上にいるゾウはアジアゾウとアフリカゾウの２種だけです。アジアゾウはインド、インドシナ半島、マレーシア等東南アジアに生息しています。

歯の話

私たち哺乳類は、まず乳歯が生え、その下から永久歯が生え乳歯と換わります。この交換を垂直交換といいます。ゾウは生まれたときすでに永久歯になっています。最初は第１小臼歯だけが生えています。そして歯がすり減ると前の端から抜け落ちて第２小臼歯といれ換わります。この交換を水平交換といいます。寿命までに計５回の歯の交換を行います。１本の歯を大事に使う、長生きの秘密はこのへんにあるのかも知れません。

ゾウの歯の生えかた



※(B)は(A)よりさらに成長した段階

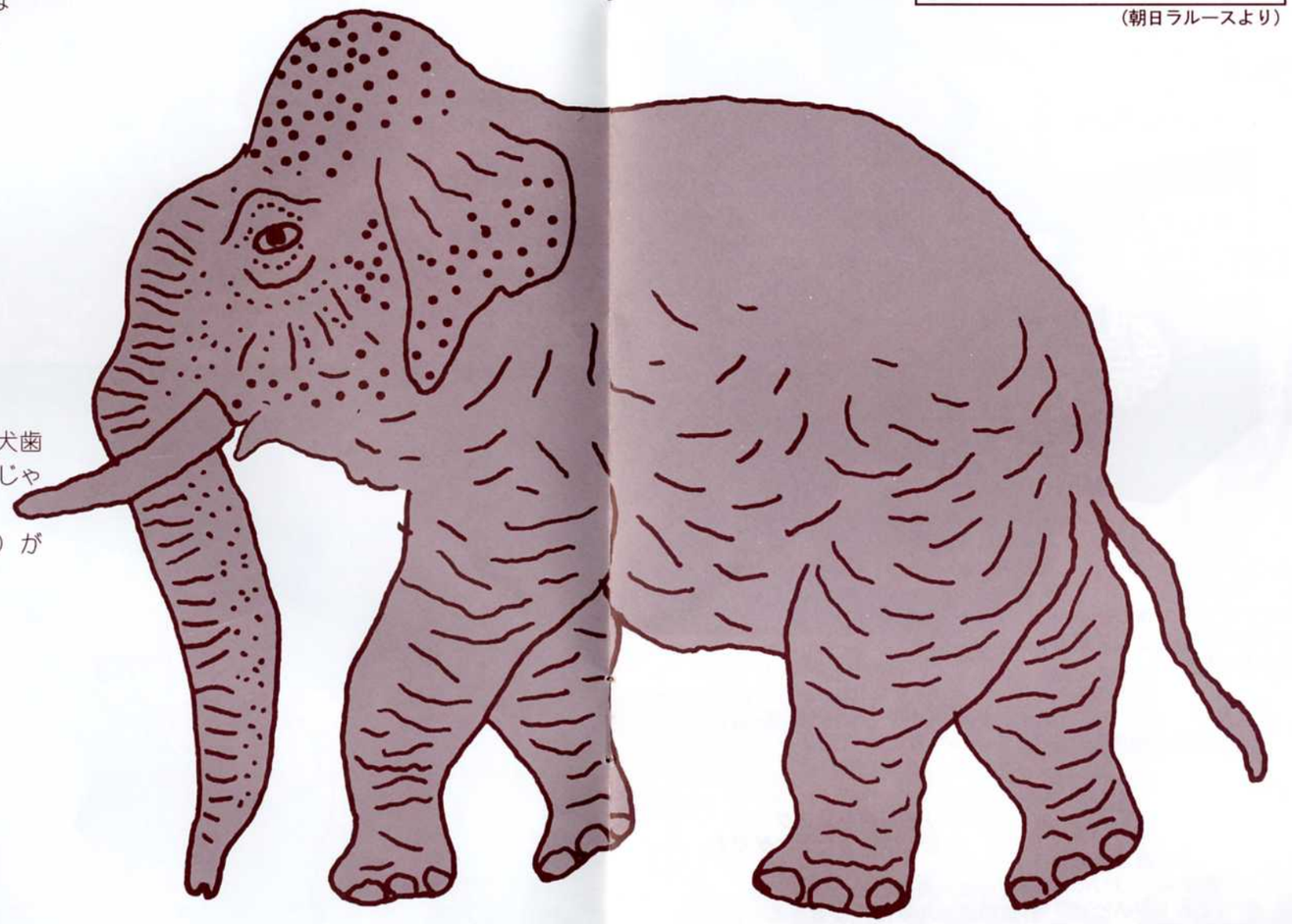
（６本の臼歯のうち最初の３本を乳歯とする説と、永久歯の小臼歯とする説がある）

（朝日ラルースより）

アサコ、30年ありがとう!!

長生き

野生での寿命は約60年。
ゾウの年はヒトの年とほぼ同じ。
ゾウの15才はヒトの15才。



象牙

牙だけど、犬歯（糸切り歯）じゃない。
門歯（前歯）が変化した歯。

大きな耳

耳にはたくさんの血管が走っていて、耳をぱたぱたさせて、体を冷やす。自動車のラジエーターと同じ働き。

おっぱい

前足の付け根に１対。ヒトと同じ。

大きな足

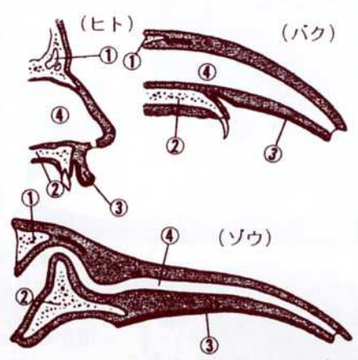
指は脂肪の中に埋まっていて足の裏全体に体重が分散してかかる。軟らかい地面でもめり込まない。

何でも出来る鼻

ゾウの鼻は上唇と鼻が伸びたもの。

木の葉をつまむ、水を飲むときは、鼻で吸い上げて口の中に吹き込む、泳ぐときはシュノーケルになる、砂浴び、あいさつ、何でも出来ちゃう。

ヒト・バク・ゾウの鼻の断面



①鼻骨　②口蓋　③上くちびる　④鼻腔
（ボアおよびパウリにより）

（朝日ラルースより）

旭山動物園～アサコとの出会いと別れ

動物園が開園した翌年にアサコはやって来ました。来年で三十周年を迎える旭山動物園は、ずーっとアサコと共に歩んできたのです。

1986年に山梨の甲府からやって来たアサコは、この時すでに三十歳前後でした。その立派な体格に飼育係達は一目で惚れ込みました。それからというもの、アサコの人なつこい性格は誰にも愛されました。「これ程穏やかな象は他にいない」とはよく言われた事です。子供も大人も、ここに来る皆を楽しませてくれました。

そんなアサコもやがて年をとり、歯はほとんど無くなり、身体は痩せていき、ちょっとした傷でも治り辛くなってきます。去年の暮れにみられた、右前肢の些細な傷がはじまりでした。抗生物質、消炎鎮痛剤、消毒をはじめとした治療を継続していましたが、徐々に徐々に、悪化していきました。手術が最も有効な手段でしたが、アサコの年齢と体力、又、アサコは旭山動物園に来てから一度も横になった事がなく、一度横になると立ち上がれないかも知れない、と言う点を考えると、手術の為の麻酔は不可能でした。そんな風にして、アサコはだんだん衰弱してゆきました。

96年３月22日　アサコの部屋にいれてやった台に身体ごと凭れてやっと立っている。
27日　右前肢の裏がスリッパのように剥がれて出血している。
30日　A.M. 3:00　倒れる。そのまま麻酔、手術を行い、治療後チェーンブロックで起立を試みるがうまくいかず。
A.M.11:00　自動車用エアジャッキで起立を試みるがうまくいかず。
P.M. 0:00　起立断念。同時に鎮痛剤の大量投与開始。
31日　横たわり衰弱しているが、水を口に含んでやると飲む。餌も食べようとしている。
４月２日　A.M.　衰弱激しく、水も飲まない。
P.M.11:30頃　死亡。

象の寿命はだいたい人間と同じくらいと言われています。ただし、日本人の寿命は人間の中でも例外的ですので、60歳前後まで生きたアサコは、ほぼ天寿を全うしたと言っていいと思います。その点で、動物達の命を預かる我々飼育係は責任を果たせたと思っています。

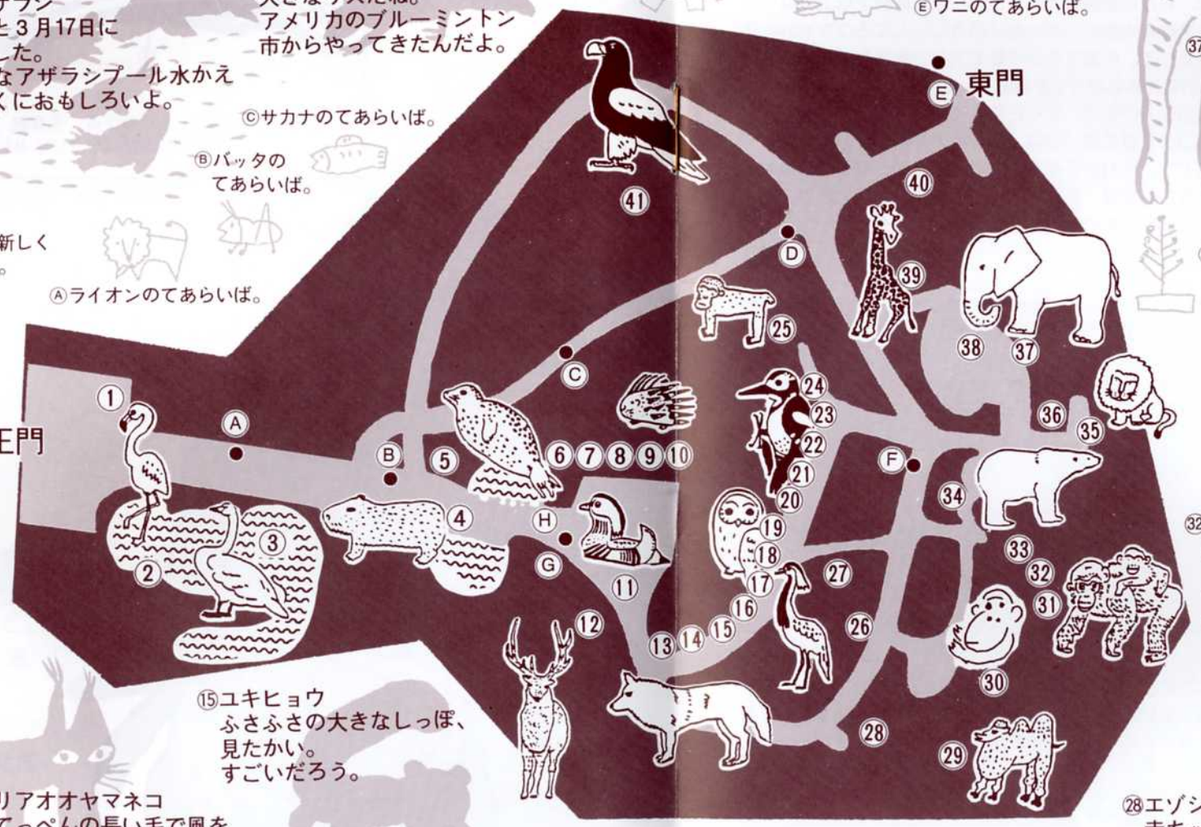
横たわっている最後の数日の間に、アサコは何を考えていたろう。三十年間に出会った子供達の笑顔を一つ一つ思い出していたのだろうか？

・・・さようなら　アサコ

1996ねん みどころマップ

ことしも たのしいこといっぱい

だれと いこうかな



①フラミンゴ
ぜんぶで22羽です。
ならんでも、ばらばらでも
きれいだね。
大きさや色がちがうのは
種類がちがうんだよ。

②水鳥池
世界にはハクチョウの仲間が
ぜんぶで６種類います。
そのうち５種類がこの池で
泳いでいます。
さがしてごらん。

③他にガンやカモがいます。
どこかで卵を抱いているかな。

④カピバラ
１日18日、４頭の赤ちゃんが
うまれました。
大きくなったでしょう。
お母さんのおっぱい
のんで元気、元気。

Ⓖふれあい広場
かわいいウサギがたくさん。
だっこしてごらん。
ふわふわしてきもちがいいよ。
ポニーもいるよ。
とてもよくなれていて
やさしいんだ。
なぜてごらん。

⑪フライングゲージ
カモがたくさん。
ヒナもうまれそう。

⑤ゴマフアザラシ
３月２日と３月17日に
うまれました。
にぎやかなアザラシプール水かえ
の日はとくにおもしろいよ。

※手洗場が新しく
できたよ。

Ⓐライオンのてあらいば。

Ⓑパッタの
てあらいば。

Ⓒサカナのてあらいば。

⑥キツネリス
大きなリスだね。
アメリカのブルーミントン
市からやってきたんだよ。

⑦レッサーパンダ
なにしてもぬいぐるみ
のようだ。

⑧アカクビワラビー
赤ちゃんふくろから
顔ださないかなあ。

⑨ウンピョウ・オセロット
おなじネコの仲間だけれど
性格がちがうんだ。

Ⓓシロクマのてあらいば。

⑩アフリカタテガミヤマアラシ
あの針、いたそうだ。

Ⓔワニのてあらいば。

⑫ワピチ
お父さんの角、なんだかふわふわ
して、角みたくないね。
袋角（ふくろづの）といってやわ
らかい布をかぶっているみたい
だ。秋にはりっぱ角になるよ。

⑬ヒグマ
北海道の大地の主である。

⑭シベリアオオヤマネコ
耳のてっぺんの長い毛で風を
かんじるのだ。

⑮ユキヒョウ
ふさふさの大きなしっぽ、
見たかい。
すごいだろう。

⑯グリーンバシリスク
新しくはいったトカゲです。

⑰ボールニシキヘビ
野球のボールみたくくるっと
丸くなってるよ。

⑱ミシシッピーアリゲーター
プールの中でぱっちり目を
あけてこっちを見てる。

⑲フクロウ舎
日本には11種類のフクロウが
記録されているけれど、
そのうちの８種類がいます。
大きいワシミミズクから小さな
コノハズクまで。

Ⓗモニュメント

⑳野鳥
春はバードウォッチングの
季節。ここでまず勉強しよう。

㉑クジャク
パッと花が開いたようだ。
シチメンチョウと
ホロホロチョウもにぎやか、
にぎやか。

㉒エゾリス・キタキツネ・
ユキウサギ・エゾタヌキ
北海道の野山をたくさんかけまわ
っているんだけど、自然の中では
なかなか見つけられないよ。

㉓タンチョウ
とても大きな鳥です。
背もたかいし、体も重い。
頭のてっぺんの「赤」が
タンチョウ（丹頂）の意味。

㉔フタコブラクダ
春から夏にかけて冬毛が
ぬけてボロボロです。
なんだかへんなラクダさん。

㉕サル山（ニホンザル）
ぜんぶで何頭？
赤ちゃん何頭？

㉖シロテテメガザル
赤ちゃんがとってもかわいい。
もうひとり遊びができる。
でもお母さんがまだまだ
だいすき。

㉗チンパンジー
ぜんぶで６頭。
おとうさんのキーボーは
ますますはりきっていますよ。
去年６月うまれのドラムちゃんも
ほらこんなにかわいくなった。

㉘オランウータン
釧路動物園うまれの
センタロウくんも
３才になりました。
やんちゃざかりで
めんこいです。

㉙エゾシカ
赤ちゃんうまれそう。

㉚サルアパート
ぜんぶで５種類のサル13頭が
アパートにすんでいます。
家賃ははらいません。

㉛ホッキョクグマ
ザップーン!!
プールにとびこむとき
注意しましょう！

㉜ライオン、シベリアトラ
一日に６kgの生肉を
ペロリと食べます。
おいしそうだね。
馬肉が主食です。

㉝シンボルタワーの
てあらいば。

㉞マルミミゾウ
アサコが死んでなんだか
さびしそう。
はやく仲間がこないかな。

㉟アジアゾウ
60才近くてまで長生き
してくれたアサコ、
ありがとう。

㊱カバ
母子で水の中。
どっちがどっちかわからない。

㊲キリン
３月15日うまれの赤ちゃん。
身長230cm、体重80kg。
わー、大きくなるんだ。

㊳ワシ・タカ舎
カッカッカッとなく。
ピーピーとなく。

特別版!! ゾウのアサコの思い出ぼろぼろ

Zoo Keeper's Retorts

飼育研究レポート

「あんなにおとなしいゾウは、めったにいないよ」先輩は口々に言う。「気は優しく力持ち」そんな言葉がピッタリのゾウだった。アサコを初めて間近でみた時は、その大きさにただ圧倒されるばかりだった。

亡くなる1ヶ月程前、夕方3時になっても4時になってもアサコは寝室に入ろうとしない。そして日が沈むと、やっと寝室に入るという日々が続いた。今思えば、アサコは旭山から見える最後の夕焼けをその目に焼き付けていたのかな？とさえ思えてくる。

誰もいないアサコの寝室に立っているとボイラー係のおじさんがやってきて「俺が見回りにくると必ず近寄って来るんだ。もう20年以上の付き合いだからね」と言って、花を供えた姿を思い出す。誰からも愛されていたアサコ。さようなら。

（中田）

私がアサコを担当したのは、95年の春から秋までの半年間でした。

アサコは、私が動物園に入ったときには既に30才以上になっていました。身体が大きく、ずっと「恐ろしいんだろうなぁ」と思っていましたので、先輩たちが平気でアサコをさわっているのを見ても、自分に出来るかどうか心配でした。

実際に担当してみると、すぐに馴れてくれて、楽しい半年間でした。アサコの一番の思い出は、彼女に予知能力があることが分かったことです。それは正確な天気予報で、朝、なかなか運動場に出たがらないときは、必ず午後から雨になります。もう、アサコの天気予報も聞けません・・・安らかに！

（深坂）

私はこれまで、アサコとはあまり縁がなく、担当や代番になったことはありませんでした。それが、アサコが倒れる数週間前から、2週続けて代番に入りました。最初は、私の手から薬を埋め込んだパンを食べてくれましたが、2回目には妙によそよそしい態度で、私が近づくのを嫌がりました。もしかしたら、度重なる治療で機嫌が悪かったのかもしれません。まさか、これが最後のお世話になるとは思ってもいませんでした。

その後、アサコの容態は悪化してゆき、アサコの檻の前を通るたびに胸がつまる思いがしました。そして、とうとう帰らぬゾウになってしまいました。長い間、本当にご苦労さまでした。

（坂野）

ぼくはアサコと出会うまで、動物園で象をみてもそれ程驚きはしませんでした。この4月から動物園で働くようになり、倒れているアサコを間近で見ました。倒れていても、ものすごい存在感で圧倒されたのを覚えています。アサコが死んだのはその2日後でした。アサコの生きている姿はたった3日しか見ていませんが、決して忘れられない存在になりました。

（木樽）

「アサコの思い出」

アサコ、お前とは長い間の付き合いだったなぁ。

俺が担当していたときは、水をかけたり背中をこすってやったりしたよなぁ。お前は、なぜか寒いときに限って寝室へ入ってこなかったよな。でも、それは暖房の配管が熱くて嫌だったんよな。配管を埋めてやったら、すぐに入ってくるようになった。

もっと早く気が付けば・・・と後悔しているよ。ごめんな。

お前のことは、生涯忘れられない思い出だよ。

よくこれまで、がんばって生き抜いてきたもんだ。

お前のがんばりが、日本最長寿の折紙付になったんだよ。

ありがとうな。俺も来春から第二の人生だ。アサコもゆっくり休んでくれよ。

（曽我部）

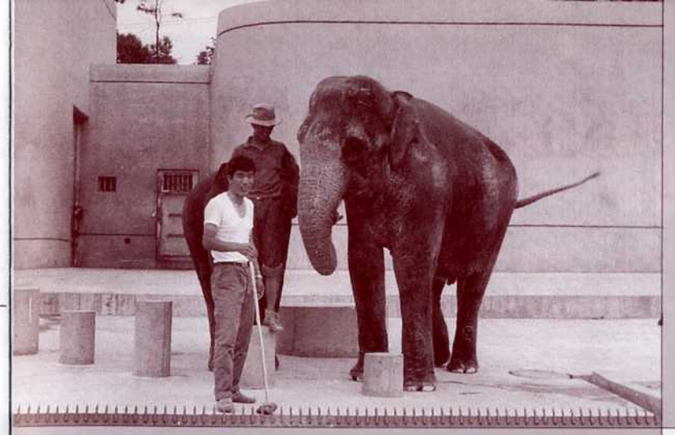
アサコは旭山のスター、それも冬の動物園の大スターだった。南国のゾウが雪の中にいることさえ驚きなのに、雪合戦までしちゃったから。テレビや雑誌で紹介され、ずいぶんと有名な存在だった。お客さんたちも「このゾウが雪合戦をするんだよ」などと噂していた。そこへ大きなうんこをポイっと投げる茶目っけたっぷりのゾウだった。

何年前だったろう。冷害で稲わらが手に入らなくなったことがある。アサコは稲わらが大好き。困った私は「SOS！ゾウの稲わらが足りない」という新聞記事を書いてもらった。その反響は大きく、翌日には道内一円の農家の皆さんから「家にあるから取りにこい」との電話を頂き、例年よりも多くの稲わらが集まった。これも、多くの人に愛されていたアサコの象柄によるものであろう。

（小菅）

20数年前のある日、当時の中俣名誉園長から、「今度来たゾウは、白象かもしれないね」と言われた。タイなどでは、白象は神様のお使いとして敬われ、信仰の対象ともなっているくらいおめでたいものなので、私は当時の担当者・浦木さんの助手として、毎日ブラシでアサコの身体をこすることになった。20才そこそこの新米飼育係であった私にとって、成獣のゾウはとてつもなく巨大に見えたが、アサコは穏やかに私を受け入れてくれた。「若いの、しっかりやんなさいよ」とでも言っているかのようだった。このときの印象は、今でも忘れられない。アサコとの出会いが、私の飼育係としての本当のスタートだったような気がしている。“動物が飼育係を育てる”という言葉があるが、30年近く飼育係をやってきた私にとって、アサコはまさしく「恩人」ならぬ「恩象」だったわけだ。

（牧田）



昭和43年の夏、私は甲府の動物園にアサコを引き取りに行きました。そこで初めて会ったアサコは、大きくて鼻だけ少し白かったのを覚えています。甲府の担当者に、アサコの健康状態などについて色々と教えていただき、翌日には旭川へ向けて出発しました。当時は、大型の動物は船で輸送するのが普通でした。

アサコと私は、東京晴海埠頭から2日間かけて苫小牧に着き、そこからトラックで旭山動物園までやってきました。

船の中でも、アサコは大変おとなしく、食欲もあり、私の言うことはよく分かっている様子でした。動物園についたアサコは、まったく臆したところもなく、まるですみ慣れたわが家へ帰ってきたように振る舞っていました。

ただ、旅の疲れですぐにプールに飛び込むかな？と思ったのですが、プールには入りたがらず、その後も決してプールに入ろうとはしませんでした。シャワーは大好きでしたので、水が嫌いというわけではなく、何か嫌な記憶があったのかもしれません。

アサコと私は、一番長い付き合いだったわけですが、最後まで面倒を見ることができて良かったと思っています。天国でゆっくり休んで下さい。さようなら。

（小林）

ゾウは動物園でもっとも危険な動物だといわれています。飼育係の事故それも死亡事故が度々起きているからです。ライオンやホッキョクグマなどの猛獣と同じ様に、おり越しでしか出会わないようにする「間接飼育」をする動物園も増えています。放飼場に入って、背中をこすったり、水浴びをさせたりする「直接飼育」をしている動物園でも、一人がゾウの放飼場の中に入ったらもう一人が外で見ている、複数飼育体制をとっています。

うちのアサコとの付き合い方は、多分他の動物園とは全く違ったものだったと思います。「オッス！アサコ」と声をかけて放飼場に入り、ホースで水浴びをさせたり、背中をこすったり、口の中に手を入れたりと、お互いに遊んでいるような付き合い方でした。他の動物園のゾウもたくさん見ました。飼育係の話もたくさん聞きました。聞けば聞くほどゾウは危険だと考えざるを得ません。でも僕は、アサコに背を向けていても、全く警戒しないでいられました。アサコはそんなゾウだったのです。もしアサコに殺されても仕方がない、そう思えるゾウでした。

獣医として、ここ数年アサコが衰えていくのは、冷静にみていました。特に硬い物が食べれなくなっているのは気にかけていました。今年の暮れにはイモを大量に湯でてイモ団子をつくらなきゃならなくなるなと考えていました。まさかこんなに早く死んでしまうとは思ってもいませんでした。

寝たきりになった数日間、毎晩鎮痛剤を注射しました。アサコの表情はとても穏やかで、「もうそんなに心配しないで、いい一生でしたよ」と語りかけていました。

（坂東）

僕がアサコに初めて会ったのは、まだ学生の頃、動物園で飼育実習をさせてもらった時だった。僕がおそるおそるアサコの運動場に入って行くと、アサコはゆっくりと反転して、おしりを向けるなり後ずさりして近づいて来た。どうやら見知らぬ人に対するアサコ流の挨拶らしいのだ。僕はビビリながらもアサコのお尻をさすってみた。生まれて初めて象に触れた。その、めちゃくちゃでっかいお尻と意外な程の皮膚の暖かさは、強烈な印象だった。

卒業後、動物園に就職した僕がアサコと付き合えたのはわずか一年足らずだった。はじめにアサコに会いに行ったとき、やはりアサコはお尻で迎えてくれた。60年近いアサコの生涯の中で、最後の、たった一年しか顔を合わせなかった僕のことなど、アサコの思い出には残っていないかも知れない。だけど、いつからかアサコは僕にも鼻で挨拶してくれるようになった。僕はそれだけで満足している。

初めてアサコに触れた時の、あのでっかいお尻の暖かさは忘れられない。あの温もりを感じたから、今、こうして動物園で働いているような気がする。

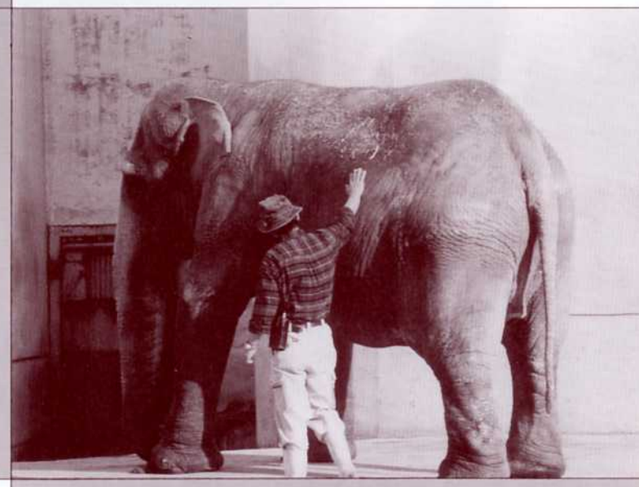
（辻松）

“朝だ、朝だ象。お前の名前はアサコだ象”と奇妙な節をつけて、俺はアサコの寝室に入る。なぜかって？。象は目があまりよくないので、俺が来たぞーって教えてやるんだ。俺だって事、教えるために掃除しているときはいつも歌ってたから、アサコはすぐに俺を覚えてくれたよ。

俺は、アサコの背中をよくレイキ（熊手のようなもの）で掻いてやった。アサコはこれが大好きだったな。

あれはいつだったか忘れたけど、アサコが背中を掻けといってきたことがある。おれが「今日は忙しいから後でな」と言うと、アサコは藁の上に大きな足を乗せたり、せっかく集めたゴミを鼻でまき散らしたり、とさんざん掃除の邪魔をしてきた。俺も腹を立てて「レイキを貸してやるから自分で掻け」と言ってやったさ。すると、レイキを鼻でつかんで、自分でポリポリと背中を掻いていたっけ。「どんなもんだ」ってな目をして見ていたよ。俺のこと。

（高橋）



私が初めてアサコの部屋に入ったのは、彼女がもう具合が悪く立っているのがやっとという状態の時であった。それから数日後、アサコが倒れたと電話があり急いで動物園にかけつけた。横たわっているアサコを見たときは、何とかしてやりたいという気持ちで一杯だった。みんなで、何とか立たそうとしたが無理だったので、後は苦痛を和らげる処置をとることになった。

私はこれまでアサコに対しての憧れはあったが特に何もしていない。夜中の水やりを希望し、一日目は夜中に二日目は朝の4時にアサコの横に来させてもらった。横になったままのアサコは、お腹が空いているようだった。バナナの皮をむいて与えるとゆっくりと食べてくれた。

アサコが死亡したのはその次の日であった。とても穏やかで苦しんだ様子がない死に顔であった。私はアサコの思い出を大切にして、ゾウを担当する日が来ることを願っている。

（松島）

アサコが旭山動物園に来たときから毎日顔を合わせていながら、一度もアサコの担当になったことがありませんでしたが、昨年の秋から初めてアサコの飼育を担当することになりました。

アサコは私のことを覚えていたのか、すんなりと担当として認めてくれました。カバの時のように、2年以上もたってからようやく担当と認められたときとは大違いでした。アサコの心の大きさ、優しさを感じました。

担当になって1ヵ月半くらい過ぎ雪が降り出す頃、前足の古傷が悪化してきました。「春になれば、また元気に歩けるようになるから頑張れよ。」と毎日毎日励ましてきましたが、年が明けても傷は悪化するばかりでいっこうに良くなりません。この頃からアサコの目はより一層優しい目になったのを感じていました。でも、おしりに注射をされたときは、よほど痛かったのか、獣医の方を向きジッと睨んでいましたが、その目は今も忘れられません。

アサコは、一日一度は外に出ることを催促してきました。戸を開けるとすぐ外に出て、雪の中の散歩を楽しんでいるようでした。それが、3月中頃から外に出ようとしなくなり、30日の早朝、ついに倒れてしまい、4月2日の深夜、眠るように目を落としました。私にとっては初めてのアサコの担当であり、アサコにとっては最後の担当者になってしまったのです。

アサコよ。長い間、入園した人たちを楽しませ、われわれ飼育係と一緒に暮らしてくれて本当にありがとう。安らかに眠って下さい。

（辻栄）

ふれあいひろばのどうぶつたち

カイウサギ（ネザーランド）

カイウサギ（ライオン）

カイウサギ（ロップイヤー）

モルモット

チンチラ

ヤギ

フェレット

ポニー

スカンク

ひろばでの約束

- 動物達に紙やおかしをあげないでネ。
- 無理に追いかけまわさないでネ。
- やさしくさわってあげてネ。
- 動物をさわった後に手をあらおうネ。

できごと

2月3日　アジアゾウ「アサコ」足の状態良くならない
2月23日　ふれあいコーナーにフェレット、チンチラ仲間入り
3月2日　ゴマフアザラシ出産
3月15日　キリン出産
3月16日　ポニー削蹄
3月17日　ゴマフアザラシ出産
3月22日　「アサコ」起立しているのが辛そうなので、鼻をのせる台を入れる。ユキヒョウ麻酔　健康診断・ワクチン
3月23日　オオヤマネコ麻酔　健康診断・ワクチン
3月24日　アムールヒョウ麻酔　健康診断・ワクチン
3月28日　ふれあいコーナーにポニー、ドワーフラビット仲間入り
3月29日　ライオン麻酔　健康診断・ワクチン
3月30日　「アサコ」倒れる
4月2日　「アサコ」死亡
4月19日　ニホンザル出産
4月24日　グリーンバシリスク入園
4月28日　開園

前回のクイズの答と解説

前号の答
　正解はカバでした。
　正解率は残念ながら0％でした。
　特集がカピバラだったので、戸惑われた方が多かったようです。キーワードは写真の中で飼育係の前方にある餌です。これは乾草、ペレット、おからです。これだけの量はカピバラ親子が一日で食べるには多すぎます。カピバラの餌は動物大使のコーナーにあります。ちなみにアリゲーターは肉食ですので、該当しません。このことから答はカバです。
キーホルダー当選者
　今回は残念ながらいませんでした。

飼育頭数（4月30日現在）

哺乳類	48種	165点
鳥　類	100種	462点
爬虫類	11種	34点
合　計	159種	661点

編集後記

　阿部寛さんが平成7年度で退職されました。でも「モユク・カムイの編集は今後も一緒にやってくれる」と力強い言葉をもらいました。これからは「外」から動物園を応援していただけたらいいなあと思っています。これからは絵本の世界で理想の「阿部ワールド」を描いて下さい。期待しています。

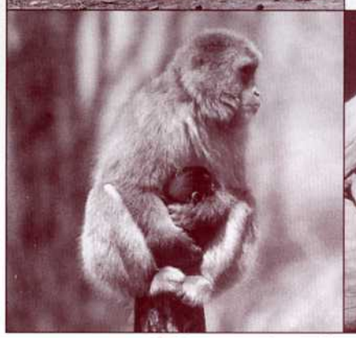
おしらせ

●赤ちゃん生れたよ

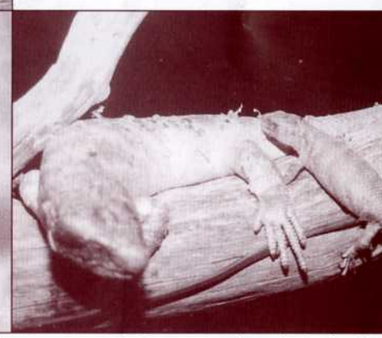
1月18日
カピバラ　4頭

3月2日
ゴマフアザラシ
3月17日
ゴマフアザラシ

3月15日　キリン



4月19日　ニホンザル

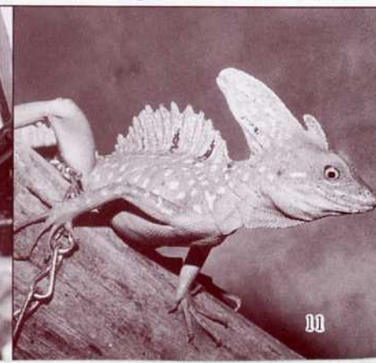


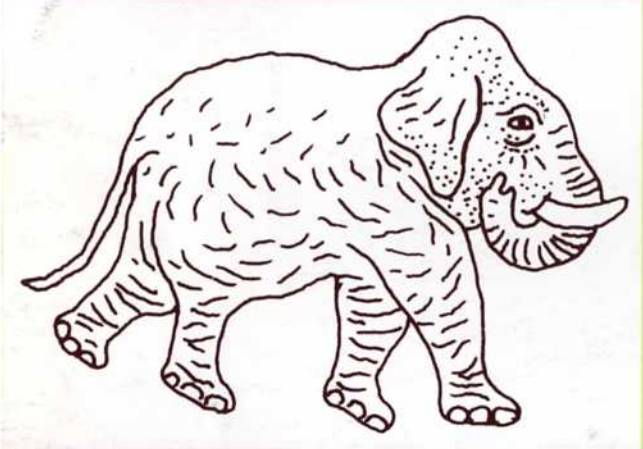
2月2日　オマキトカゲ

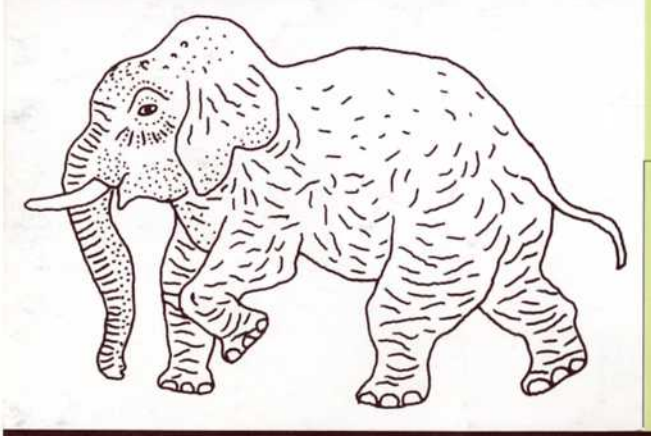
●新らしい仲間●

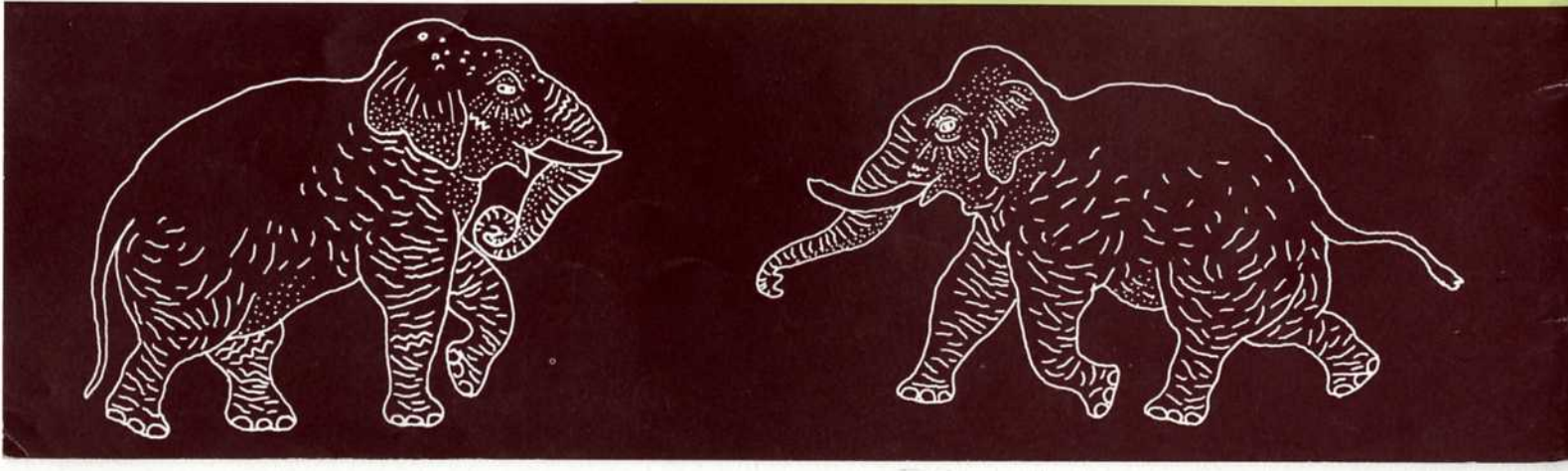
●キツネリス

●グリーンバシリスク







モユク・カムイ No.44 平成8年6月10日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
発行 小菅正夫
編集委員 坂東元・松島守・中田真一・辻松淳二
イラスト・デザイン あべ弘士
印刷 谷川印刷株式会社 〒070 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653